文法・重要語	/40	合計
読解	/60	/100

検印

説話

十訓抄　大江山

教科書 p.26〜p.27

文法・重要語の確認

1 次の漢字の読みを現代仮名遣いで答えよ。〈各4点〉

(1) 局（三六・4）　(2) 御簾（三六・4）　(3) 直衣（三六・5）

2 次の空欄に入るように傍線部の意味を答えよ。〈各6点〉

(1) いかに心もとなく思すらむ。（三六・3）
訳 どんなに〔　　〕お思いになっているだろうか。

(2) うちまかせての理運のことなれども、（三七・1）
訳〔　　〕当然の結果であるけれども、

(3) ただいま詠み出だすべし（三七・2）
訳〔　　〕詠み出すことができる

(1)

(2)

(3)

3 「知られざりけるにや」（三七・3）の後に省略されている表現として最も適当なものを、次から選べ。〈3点〉

ア あり　イ あらむ　ウ あれ　エ あらめ

4 次の傍線部の助動詞「れ」「られ」のうち、文法的意味の異なるものを選べ。また、その意味を答えよ。〈各2点〉

ア 小式部内侍、歌詠みにとられて（三六・2）
イ 局の前を過ぎられけるを、（三六・4）
ウ 袖を引き放ちて、逃げられけり。（三六・8）

5 「天の橋立」（三六・6）は日本三景の一つである。残る二つのうち歌枕としても著名な東北の景勝地を漢字で答えよ。〈3点〉

第一段落

文脈を理解する

1 「歌詠みにとられて」（三六・2）の現代語訳として最も適当なものを、次から選べ。〈4点〉

ア 歌人として選ばれて　イ 歌を詠むために連れて行かれて
ウ 歌人に歌を盗まれて　エ 歌を詠むのに苦労して

2 「丹後へ遣はしける人は参りたりや。いかに心もとなく思すらむ」（三六・3）について、

(1) 「丹後へ遣はしける人」とは、①誰が、②誰のもとに遣わした人か。また、③「心もとなく思す」の主語は誰か。最も適当なものを、それぞれ選べ。入試 皇學館大・改〈各3点〉

ア 定頼中納言　イ 保昌
ウ 小式部内侍　エ 和泉式部

①

②

③

(2) この言葉は、あることが世間で広く知られていたということが前提となって述べられている。その内容として最も適当なものを、次から選べ。〈5点〉

ア 小式部内侍は母親思いであったということ。
イ 小式部内侍は母と一緒に丹後で暮らしていたということ。
ウ 小式部内侍の母はすぐれた歌人であったということ。
エ 定頼中納言は小式部内侍を嫌っていたということ。

3 「大江山…」（三六・6）の歌について、

(1) この歌には掛詞が二箇所用いられている。それぞれの掛詞について、二つの意味がわかるように説明せよ。〈各5点〉

(2) この歌で小式部内侍は定頼中納言にどのようなことを言おうとしたのか。二十字以内で説明せよ。〈6点〉

20

10

第一段落

4* 「かかるやうやはある」（三六・7）を、「かかる」の指す内容を明らかにして現代語訳せよ。〈7点〉

5 「歌詠みの世におぼえ出で来にけり」（三六・9）の解釈として最も適当なものを、次から選べ。〈5点〉

ア 小式部内侍の歌を世間が覚えて、後の時代に伝え始めたということ。
イ 小式部内侍は和泉式部の娘であったと改めて世間の人々は記憶にとどめたということ。
ウ 和泉式部はやはりすぐれた歌人であったという評判が広まり始めたということ。
エ 小式部内侍は非凡な歌人だという評判が世間で広まり始めたということ。

第二段落

6 「これはうちまかせての理運のことなれども」（三七・1）とあるが、なぜ「理運のこと」と言えるのか。説明せよ。〈6点〉

主題を考える

7 『十訓抄』は教訓を示すための説話を集めた作品であるが、「大江山」は次のどの教訓として収録されたものと考えられるか。最も適当なものを、次から選べ。〈8点〉

ア 驕（おご）りを避けるべきであるということ。
イ 人を侮ってはいけないということ。
ウ 友人を選ぶべきであるということ。
エ 欲望を慎むべきであるということ。
オ すべてを忍耐するべきであるということ。